

## 第4回 部会検討結果報告書（都市基盤・産業部会）

<b>記録者</b>	土井 恵子	<b>場所</b>	府中駅北第2庁舎3階会議室	
<b>開催日時</b>	令和2年10月3日（土）午前10時00分～12時00分			
<b>出席者 (11名)</b>	井上 博正	近藤 克浩	佐久間 雄一	高野 茂久
	谷本 三郎	廣瀬 健	向井 博文	和田 勇樹
	柳瀬 郁	川村 昂史	土井 恵子	

<b>基本施策名</b>	4-5 商工業の振興 4-6 都市農業の育成
<b>内容</b>	別紙：見直し論点シートのとおり
<b>その他</b>	

# 見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課
4-5	商工業の振興	生活環境部	産業振興課	観光プロモーション課

ver 情報

## ア. 第6次総合計画後期基本計画の進捗状況

基本施策全体の進捗状況	平均値	施策名	進捗状況	施策名	進捗状況
やや遅れているが、概ね順調	2.4	中小企業の経営基盤強化の支援	1：遅れが生じている	観光資源の活用・創出による地域活性化	2：やや遅れているが、概ね順調
		地域商業の振興	3：目標達成に向けて順調	消費生活の向上	3：目標達成に向けて順調
		工業の育成	3：目標達成に向けて順調		

## イ. これまでに（第6次総合計画期間に）得られた成果・残された課題

主な取組と成果	<p>【中小企業の経営基盤強化の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業事業資金融資利子補助を実施し、社会経済情勢により実績には変動があるものの、中小企業の経営基盤強化を図った。</li> <li>むさし府中商工会議所が実施する経営改善普及指導事業に対して継続して支援を行った。</li> </ul> <p>【地域商業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>むさし府中商工会議所が実施する各事業に対して継続して支援を行い、商工業の振興と安定に寄与することができた。</li> <li>商店街の活性化を図り、にぎわいを創出するため、市内対象商店街の空き店舗を活用し、新規開業希望者の誘致から、商店街とのマッチング、さらには商店街のにぎわいにつながる支援を行った。</li> </ul> <p>【工業の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>府中市工業技術情報センターにおいて専門の相談員による技術相談を行い、市内企業への技術支援を行った</li> <li>府中市工業技術展（テクノフェア）をむさし府中商工会議所に委託して継続実施した。産・学・官の連携や出展企業間のマッチングが図られ、新たに市内企業の就職相談会を実施するなど、工業の育成に寄与することが出来た。</li> </ul> <p>また、平成30年度からは、市民活動センタープラッツ内のバルトホールに会場を移し、多くの方に来場いただくことができた。</p> <p>【観光資源の活用・創出による地域活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光情報センターと郷土の森観光物産館を拠点とした、観光情報の発信強化</li> <li>近隣自治体との広域連携による観光事業の実施（国分寺市、京王線沿線5市、南武線沿線市等）</li> <li>市外でのPR活動の強化</li> <li>新たな観光資源の発掘として、本市にゆかりのある漫画を活用した、観光事業の実施</li> <li>スポーツの大会のために市を訪れる外国人観光客向けの観光施策を実施</li> </ul> <p>【消費生活の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様化する消費生活上のトラブルについての相談を受け付け、その解決に努めた。また平成29年7月より市民活動センタープラッツ内に消費生活センターを開設し、相談しやすい環境を整えるとともに、相談体制の拡充を図った。</li> <li>消費生活展や消費生活講座などの様々な啓発活動を行い、消費生活に関する意識啓発を図った。</li> </ul>
---------	--

残された課題	<p>【中小企業の経営基盤強化の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症による中小企業を取り巻く環境に甚大な影響を及ぼしていることから、国施策とともに経営基盤強化につながる支援を実施する必要がある。</li> <li>むさし府中商工会議所の会員数は減少傾向となっており、今後、事業の進捗に遅れの影響が懸念される。</li> </ul> <p>【地域商業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地における大型商業施設などの閉店により、中心市街地はもとより市内経済の活力が減退するおそれがあることから、むさし府中商工会議所との連携を強化する必要がある。</li> <li>商店が各自の経営でいっぱいとなり、商店街活動に他に手が回らなくなっているため、市には商</li> </ul>
--------	---

## エ. 次期総合計画策定に向けた見直しの論点

<p>【中小企業の経営基盤強化の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業事業資金融資事業の更なる利用増に向けた制度の見直し及び改善の必要性の検討</li> <li>悪化する市内経済への支援策を検討</li> </ul> <p>【地域商業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>創業支援に関する取組の強化</li> <li>行政のみならず、NPO法人や民間団体等の様々な主体による創業支援態勢の構築</li> <li>廃業を増加させない事業承継の支援</li> <li>市内の創業数、廃業数データを施策指標として活用する。</li> <li>新たな商店街振興プランに基づいた商店街の活力向上につながる施策の検討</li> </ul> <p>【工業の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な手法を用いた異業種交流の促進</li> <li>国・都と連携し、市内企業だけでなく他自治体にある企業とも連携を行う。</li> <li>都立産業技術研究センターなどの専門性の高い機関との更なる連携を図り、市内企業の支援体制を強化する。</li> </ul> <p>【観光資源の活用・創出による地域活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光情報センターの機能強化による、多言語対応可能な情報センターへの改善</li> <li>外国人観光客向けの情報発信の強化及び観光施策の実施</li> <li>観光という視点で、地域に愛着をもつ多様な市民との連携を図り、地域の活性化、まちづくりを推進する。</li> <li>市民向けに観光情報の発信を行うことで、市内の魅力の再評価及び郷土愛の醸成を深める機会とし、府中ファンの市民を増やす取組につなげる</li> <li>指さし会話帳など外国人観光客とコミュニケーションをとるきっかけとなるツールを作成し、市民の</li> </ul>
--

## オ. 協働の実践に向けて

<p>【中小企業の経営基盤強化の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商工会議所、金融機関との連携強化</li> </ul> <p>【地域商業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市、むさし府中商工会議所、NPO法人、民間団体等の様々な主体の連携による創業支援体制、後継者育成・事業承継体制の確立</li> <li>空き店舗を活用した企業誘致、起業支援策の創出。</li> </ul> <p>【工業の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市・むさし府中商工会議所・NPO法人・民間団体・大学等の様々な主体の連携による異業種交流・産学共同の促進</li> </ul> <p>【観光資源の活用・創出による地域活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京外語大・東京農工大など、留学生が多く在籍している大学との連携による、事業の企画・実施（SNSによる外国への観光情報の発信等）</li> <li>主要な観光スポット、競技会場周辺の事業者と連携した、観光施策の展開</li> <li>祭り等のイベントに大学の関係者を巻き込み、若い学生を取り込む</li> <li>多様な属性の市民との協働により、地域を観光の視点から見直し、市民にとって</li> </ul>
---

# 見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課	ver 情報
4-5	商工業の振興	生活環境部	産業振興課	観光プロモーション課	

<p>店街役員会などの運営強化に向けた人的支援が求められている。</p> <p>【工業の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくり企業の多様化するニーズに対応する技術支援を行うため、関係団体との連携強化を図る必要がある。</li> <li>府中市工業技術展（テクノフェア）の出展企業等の数は減少傾向にあるため、更なる周知・PRに努めるなど、出展企業等の数の増加に努める。</li> </ul> <p>【観光資源の活用・創出による地域活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツの大会に向けた観光施策をソフトレガシーとして、大会後の本市の観光施策に活用するために、成果の把握や課題等も踏まえた情報収集と分析が必要</li> <li>外国人観光客の受入環境の整備や外国人観光客が楽しめる催しなど、スポーツの大会に向けた外国人観光客向けの観光施策を一過性のものとせず、大会後にも繰り返し本市に来訪してもらえるような施策展開が必要</li> <li>新型コロナウイルスの感染拡大による観光への影響の分析や課題の整理が必要</li> </ul> <p>【消費生活の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2022年4月より成人年齢が引き下げられることから、若者に対する消費者教育の強化が必要である。</li> </ul>
---

## ウ. 今後、予想される新たなニーズ・課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により中小企業の経営状況が悪化することから、資金繰りや経営環境整備、クラウドファンディングなど、行政からの支援策を求める声が増加することが想定される。</li> <li>商店街の活性化のためには、キーとなる人材が重要で、外部からの視点も必要になってくる。</li> <li>経済状況の悪化から、創業する事業者の鈍化が予想される。</li> <li>商工業者の高齢化、事業承継の問題が深刻化している。</li> <li>創業支援以上に、事業承継の支援も必要となる。</li> <li>商工業など市内の産業全体の方針を示すマスタープランが必要となる。</li> <li>高齢者を中心とした買い物弱者等が更に増加することが予想される。</li> <li>空き店舗の増加が進んでいく。</li> <li>外国人観光客の増加に対する対応（受入環境の整備・外国人向けの観光施策の実施）</li> <li>都市間競争の視点が重要となる。くらやみ祭りなどを「活用する」という発想で集客・PRしていく取組が求められる。</li> <li>国内外に向けた情報発信の強化</li> <li>テーマやエリアごとに、近隣自治体と観光分野での連携を深める必要がある。</li> <li>シェアサイクルなど新たな交通サービスを活用した市内周遊の提案</li> <li>第5世代移動通信システム（5G）の実現やIoT（Internet of Things）の本格化、MaaS（Mobility as a Service）というICTを活用して交通をクラウド化し、マイカー以外のすべての交通手段による移動を1つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念が注目されていることなど、観光に関わる時代やサービスの変化を的確に捉えながら、柔軟に対応していく必要がある。</li> <li>人口の減少により国内観光マーケットが縮小する一方、引き続き世代人口が増加する60代、70代のシニア層をターゲットとした観光施策を展開するなど、時代の変化に対応した成長戦略を図る必要がある。</li> <li>若者に対する消費者教育を推進するため、関係機関との連携体制を構築する必要がある。</li> </ul>
--

<p>「おもてなし」の機運醸成を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国府関係など近隣市と連携した観光事業の充実</li> <li>外国人観光客の呼び込み促進（外国メディアへの掲載）。</li> <li>スポーツの大会に向けた観光施策（拠点へのWiFi設置、市内店舗での外国人への対応、緊急時などの案内の多言語化）の成果の把握と課題の整理</li> <li>観光資源の洗い出し及び対象者ごとのニーズを把握し、訪れやすく、また来たいという環境づくり</li> <li>ホームページやアプリ、SNSなど様々な手法による観光情報の発信と、更なる探しやすさの充実</li> <li>観光分野におけるIT化ニーズの増大やモビリティの多様化などの状況の把握</li> <li>コロナ禍における観光プロモーションのあり方、新しい生活様式や感染防止策に配慮したイベントのあり方の検討</li> </ul>
---

<p>【消費生活の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者や障害者、認知症などにより判断力が不十分となった方の消費者被害を防ぐため、消費者安全確保地域連携協議会の役割を果たせるような既存のネットワークを活用し、連携して見守り活動が行えるような体制を検討する。</li> <li>2022年4月より成人年齢の引き下げによる若者の消費者被害を防止するため、教育機関での消費者教育の強化を検討する。</li> </ul>
---

<p>も観光客にとっても、快適なまちづくりを推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市が舞台となった映画、ドラマなどの映像作品、アニメ・漫画等のコンテンツを活用して、観光資源の発信を行う。</li> <li>スポーツの大会に向けた観光施策をソフトレガシーとして活用</li> <li>市民の知っているローカル観光名所などを発掘し、PRする。</li> <li>観光情報を市民と一緒に発信できるような仕組み、場所づくりを行う。</li> </ul>
--

<p>【消費生活の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費者教育を強化するため、教育機関や福祉団体と連携し、講座を実施する。</li> </ul>
--

# 見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課
4-5	商工業の振興	生活環境部	産業振興課	観光プロモーション課

ver 情報

## カ. 第6次総合計画（基本構想）における「めざすまちの姿」の見直し

「めざすまちの姿」	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 個店と市民が関係性を育み、市民は身近なところで生活に必要なサービスやものを買うことができ、市外からも買い物に来るような魅力ある商店のあるまちになっています。</li><li>・ 府中の歴史、文化、自然などの観光資源が活用され、市民や観光客でまちがにぎわっています。</li><li>・ 市内企業の経営の改善と事業承継が進み、市内経済が活気に満ちています。</li><li>・ 市民は安心した消費生活を営んでいます。</li><li>・ 新たな創業者を含めて、個店同士がつながりのあるまちになっています。</li></ul>
見直しの理由	<ul style="list-style-type: none"><li>・</li><li>・</li></ul>

# 見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課
4-6	都市農業の育成	生活環境部	産業振興課	

ver 情報

## ア. 第6次総合計画後期基本計画の進捗状況

基本施策全体の進捗状況	平均値	施策名	進捗状況	施策名	進捗状況
目標達成に向けて順調	3.0	農地の保全、府中産農産物の流通拡大と担い手の育成	3：目標達成に向けて順調		
		農業とふれあう機会の拡充	3：目標達成に向けて順調		

## イ. これまでに（第6次総合計画期間に）得られた成果・残された課題

主な取組と成果	<p><b>【農地の保全、府中産農産物の流通拡大と担い手の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農地面積（生産緑地を含む）については、第3次農業振興計画において平均約3.9ha/年の減少にとどめることを目標として設定しているところだが、平成26年度～平成30年度までの実績では平均約2.8ha/年の減少にとどまっている。うち生産緑地については、第6次総合計画では平均約1.3ha/年の減少にとどめることを目標として設定しているところだが、平成26年度～平成30年度までの実績では平均約1.0ha/年の減少にとどまっている。</li> <li>農業経営の改善に意欲を持って計画的に取り組む認定農業者については、人数が増加傾向で推移している（H26：110人⇒R1：131人）ほか、令和2年度には新たに市独自の准認定農業者制度を創設し、意欲ある農業者への支援を充実する。</li> <li>都市農地保全支援事業や都市農業活性化支援事業などの都制度を活用した新規の補助事業を実施し、農地の保全と農業経営の改善に係る支援の充実を図った。</li> </ul> <p><b>【農業とふれあう機会の拡充】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度に農業公園整備計画検討協議会を設置し、平成29年度には「府中市農業公園の整備に係る基本方針」を策定した。また、同年より西府町農業公園（仮称）の整備に向けた作業に着手し、令和3年2月の供用開始を目途に準備を進めている。</li> </ul>
残された課題	<p><b>【農地の保全、府中産農産物の流通拡大と担い手の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相続や遺産分割に起因する農地の減少、周辺開発による農業環境の悪化などが進んでおり、農作物の生産基盤となる良好な農地の確保が依然として大きな課題として残されている。</li> <li>少子高齢化や価値観等の多様化が進む中で、農業従事者の高齢化や後継者不足など農業の担い手の確保が今後も益々困難となっていくことが想定される。</li> <li>生産性の向上や販路の確保など農業収入の向上を図るための支援策について、今後も関係機関等と連携しながら研究していく必要がある。</li> <li>都による支援制度のほか、市による支援制度も拡充していく必要がある。</li> </ul> <p><b>【農業とふれあう機会の拡充】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たに開設する西府町農業公園（仮称）を拠点とした各種取組を検討・試行しながら進めていく必要がある。</li> <li>市民農園については農地所有者における相続の発生等により農地を返却せざるを得ないケースが多く、直近の10年間で区画数が半減している。</li> </ul>

## ウ. 今後、予想される新たなニーズ・課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>相続や遺産分割に伴い個々の生産基盤となる農地が小規模化していく中で、新たな施設や栽培システムの導入により農地の面積当たりの収益性を高める取組や、観光農園化や6次産業化など付加価値を高める取組に対する支援のニーズが益々高まっていくことが予想される。</li> <li>市民農園については、農地所有者が高齢化していることから、農地を返却せざるを得ないケースが更に多くなっていくことが予想される。</li> <li>生産緑地の指定から30年がたつ令和4年に、多くの生産緑地が解除されることに関して対策が求められる。</li> <li>食育などによる教育を通じ、子供たちへ農業の大切さを啓発してゆく必要がある。</li> </ul>
---

## エ. 次期総合計画策定に向けた見直しの論点

<p><b>【農地の保全、府中産農産物の流通拡大と担い手の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担い手を確保し農地を残していくためにも、農業が魅力ある産業として維持・発展していく必要がある。これに資する農業者の取組に対する各種支援を継続していく必要がある。</li> <li>施策名について、上記の内容及び「府中産農産物の流通拡大」も含めて広く農業経営を支援していく観点から、「担い手の確保と農地の保全、魅力ある農業経営への支援」に変更してはどうか。</li> <li>農業と商工業は一体的な視野における計画を立て、施策を進めていく必要がある。</li> </ul> <p><b>【農業とふれあう機会の拡充】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業公園を拠点に収穫体験イベントや農業体験講座を実施し、市民が農業とふれあう機会を拡充する。</li> <li>市民が農業とのふれあいを通じて農地・農業のもつ多面的機能（生産・景観・環境・防災・教育・地域コミュニティ形成等）を体感し、都市における農地の重要性や貴重さへの理解を深めていく取組が重要である。</li> <li>学校などの教育で子供たちが農業について知る機会を拡充する。</li> </ul>
--

## オ. 協働の実践に向けて

<p><b>【農地の保全、府中産農産物の流通拡大と担い手の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業者の新たなチャレンジや各種取組を関係機関と連携しながら支援する。</li> <li>ベジフルプロジェクトの一環として農産物生産、販路拡大、マーケティングを協働で実践できると良い。</li> <li>市内の農業と商工業での各種団体同士の連携</li> </ul> <p><b>【農業とふれあう機会の拡充】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域を巻き込んだ農業公園の運営や活用。</li> <li>教育分野において食育としての地産地消や、学校などの教育施設との連携を拡充する。</li> </ul>
--

# 見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課
4-6	都市農業の育成	生活環境部	産業振興課	

ver 情報

## カ. 第6次総合計画（基本構想）における「めざすまちの姿」の見直し

<p>「めざすまちの姿」</p> <p>※斜体は市担当課が見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・<del>府中の特産品ブランドが確立され、</del>市内の府中産農産物のPRを行い、その魅力が市民だけではなく、市外の方にも知られています。</li><li>・農業の担い手が、意欲を持って農業経営に取り組み、新鮮で安全な農産物を供給しています。</li><li>・市民は、農地が果たす環境や防災など多面的な機能の重要性を認識し、府中産農産物を購入するなど、地産地消を通じて府中の農業を支えています。</li><li>・農業者、市民、市などが連携し、次の世代に府中の農業を引き継ぐ取組を進めています。</li></ul>
<p>見直しの理由</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・特産品ブランドの確立のみに限定せずに、特定の生産者のファンや観光農園などの存在も含め広い意味で「府中産農産物の魅力」と言い換えたもの。</li></ul>

※給食における地産地消の割合を施策目標としたらどうか。